

不登校巡回教員の不登校生徒等への対応について

不登校生徒の状況

対象生徒は、学力不振を起因に年度の途中から登校ができなくなった。家で過ごす時間が多く、学校へなかなか足が向かない生徒だが、不登校巡回教員との関わりにより、少しずつ学校とのつながりができてきている。



具体的な取組

○学校生活に関するアンケート調査

生徒の率直な意見を引き出すとともに、教員への学級づくりに関する助言を得ることができた。

いじめに発展するような事案も早期発見することができ、教員の生徒理解へつながった。

○長期欠席生徒へのアプローチ

登校できない生徒や家庭に対し、配布物を届けることで学校とのつながりが途絶えないようにした。

欠席状況や生徒支援委員会での情報を基に、生徒に対するアプローチ方法を担任と相談した。

○生徒支援委員会への参加

毎週行われる生徒支援委員会へ参加し、学年からの報告共有や別室等の環境整備への助言を得ることができた。

巡回している他校の実践例を参考に、自校での取組について話し合うことができた。

○校内研修の実施

不登校対応巡回教員の役割や校内別室の活用について校内研修を行い、校内での体制整備を推進した。これにより、教職員の不登校対応や別室利用生徒への理解が深まった。

成果

教員への助言を中心に、各学校を巡回して把握した情報を共有することができた。学校生活アンケート調査により、生徒の実態把握に努めることができた。

課題

巡回してもらいたい曜日が各学校で重なってしまっている。

巡回教員の良さを更に生かしていく。

不登校対応巡回教員と協働する不登校支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 1 年生の 2 学期途中までは教室に通っていたが、友人関係の問題から教室ではない場所で静かに過ごすことを希望し、3 学期から校内別室を利用し始めた。周囲の期待に応えることができていないことへのプレッシャーから、精神的に落ち着かない中での利用開始だった。校内別室における支援により落ち着きや自信を回復しつつある。

具体的な取組

○組織的な対応

週 1 回の不登校対策委員会（校長、各学年、養護教諭、特別支援専門員、SSW）に不登校対応巡回教員も出席し、当該生徒の情報の収集、共有、分析を行い、組織的に支援策を講じている。また、会議の内容を各学年にフィードバックしている。

○家庭訪問

不登校生徒の家庭に、不登校対応巡回教員が担任と共に訪問し、当該生徒と学校の関係がつながり続けるようにしている。また、巡回教員は、保護者との面会にも同席し、家庭での様子を把握するとともに必要な支援を検討・提案している。

○校内スタッフとの連携

不登校対応巡回教員は、教員だけでなく特別支援専門員や SC、校内別室指導支援員等のスタッフとも情報交換・連携している。

これにより、より多角的かつ専門的な観点から必要な支援を実施することができている。

○校内別室の整備・運営

不登校対応巡回教員が中心となり、不登校生徒にとって校内における居場所である校内別室について、落ち着いて学習できる環境の整備を行っている。運動の機会も意図的に増やしている。



成果

校内別室満足度アンケートでは、利用者のうち、満足 58.3%（7 人）、やや満足 41.7%（5 人）であった。

昨年度校内別室を継続して利用した生徒のうち 6 人が今年度教室復帰を果たしている。

課題

学習意識に働きかけるしかけづくり

学習意欲が高い校内別室利用生徒への支援の充実

対象生徒の在校時間を少しでも増やすために巡回教員と協力して推進した取組について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校入学時には、通常通り登校していたが、2年生1学期の途中から教室に入れない状態となった。

保護者は学習面に対する不安の方が強く、そのために当該生徒に授業を受けさせたいという意向がある。

具体的な取組

○不登校に関する現状分析

不登校対応巡回教員の助言を踏まえて作成した生徒アンケートを年3回実施し、自校における不登校の傾向及び要因等について分析した。

分析した内容などについて、校内研修などで周知・検討することにより、教職員間での共通理解を図った。

○不登校生徒への校内で統一した対応

校内別室指導において、不登校対応巡回教員の助言を踏まえて様式を決定した登校記録ファイルを作成・活用している。

当該生徒が登校記録ファイルを活用するに当たり、職員会議で流れを周知し、どの教職員でも対応が可能になるような体制を整え、指導に当たることができた。

○支援会議の企画、運営等

原則、不登校対応巡回教員の巡回日に支援会議を開催している。当該生徒の状況把握にとどまらず、具体的な対応策も検討・協議した。

巡回教員が作成した「巡回通信」を活用し、の巡回校での取組を共有した。



○不登校生徒や保護者への対応の強化

不登校対応巡回教員の助言を踏まえて様式を決定した不登校個別支援計画を作成し、教職員で共有して、当該生徒に合った支援・指導を推進している。

不登校対応巡回教員の助言を踏まえて、SCやSSWとも連携し、保護者に関係機関を紹介する。

成果

当該生徒は、2年生の1学期（支援開始前）と、2年生の2学期（支援開始後）を比べると、朝から登校できる日数が平均して週1日ほど増加した。

課題

実技教科での実習などを含め、学習に対する支援体制をより実効性のあるものに改善していく。

不登校対応巡回教員の校内での不登校支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 1 年生の途中から腹痛などが原因で教室に入ることが難しくなった。2 年生になって、日にち・時間を自分で決めて校内別室に登校し、勉強を進めている。少しずつ教室に戻るための準備として、クラスの仲の良い生徒と交流したり、教室近くまで行ってみたりすることなどを試みている。

具体的な取組

○支援会議への参加

毎週火曜日に生活指導部会と兼ねて、生徒の様子を共有し、不登校生徒の状態や変化などの情報を共有している。また、月に 1 回特別支援と兼ねての不登校支援会議も実施しており、全教職員で共有ができています。

○不登校生徒の情報収集と対応

支援会議で全体に不登校生徒の様子、欠席日数等を聞いたり、校内別室に不登校対応巡回教員が行き、別室登校をしている不登校生徒と話し、その様子を学年主任等と共有している。

○支援計画の作成支援と校内研修支援

個別支援計画の作成については、不登校対応巡回教員と連携して、不登校対応コーディネーターを中心にまとめている。また、不登校対応巡回教員が全教職員を対象にした不登校生徒への対応、未然防止、生活意識調査の結果共有の研修を実施している。

○SC、SSWや関係機関等との連携

不登校対応巡回教員が勤務する毎週火曜日に SSW も勤務していることから、支援会議を含めて不登校生徒の情報共有を行っている。また、不登校対応巡回教員と SSW が担任の不登校生徒支援を補助することもできている。



成果

今年度から不登校生徒専用の校内別室を新たに作り、支援体制を校内全体で強化することができた。不登校生徒の支援方法などについて、校内研修を通して全教職員で共有することができた。

課題

打合せの時間が合わない不登校対応巡回教員と校内別室指導支援員間の情報共有が、課題である。

不登校対応巡回教員による不登校生徒の対応等について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校 1 年生は通常どおり登校していたが、2 年生のクラス替えで友人関係に悩み、教室に入れなくなった。現在は、校内別室に登校している。

学校全体としては、新規での不登校生徒数よりも継続での不登校生徒数が多い。小学校から継続して不登校の生徒も少なくない。

具体的な取組

○支援会議への参加

不登校対応巡回教員が勤務する水曜日に、特別支援の会議と兼ねて不登校対策の会議を実施した。不登校対応巡回教員がこの会議で生活意識調査の実施案や結果を共有したり、教育支援センターでの不登校生徒の様子を共有したりしている。

○不登校生徒の情報収集と対応

校内別室に定期的に行き、校内別室指導支援員と情報共有をしたり、当該生徒と話をし、様子を確認したりしている。気になった様子や情報については、随時担任に報告している。



○支援計画の作成支援と校内研修支援

当該生徒の個別支援計画を作成し、関係機関との連携などを確認し、別室指導支援員とも必要に応じて共有している。また、校内研修では当該生徒への対応や生活意識調査の結果を共有し、全教職員で確認している。

○SC、SSWや関係機関等との連携

不登校対応巡回教員の勤務日には、SSWが勤務しているので、会議等で情報共有を行っている。また、教育支援センターを訪問し、学校との連携を図っている。

成果

年 3 回実施した生活意識調査について、全校生徒の様子や悩んでいることなどを共有することができ、各学級で生かすことができた。

課題

校内別室に来ている生徒と、巡回教員の勤務日が決まっているので、校内体制の整備が必要である。

不登校対応巡回教員による校内体制充実の取組について

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校中学年から不登校傾向にあり、入学式から数日は教室に入ることができたが、集団生活への苦手意識や本人の緊張感に加え、体調不良もあり、登校が不安定になっていった。担任やＳＳＷ等が連携して働きかけを行い、無理のない日時を決めて別室登校ができるようになってきた。今後も継続して見守っていく。

具体的な取組

○支援会議への参加

毎週金曜日に不登校対応巡回教員も参加し、不登校生徒の実態と把握、早期解決について助言している。また、他の巡回校の取組事例を紹介して、参考になる具体的な方策を示している。



○不登校生徒の情報収集と対応

各学級の担任、不登校対応コーディネーター、ＳＣ、ＳＳＷと連携を図り、不登校生徒の様子や支援などを共有し、助言している。また、不登校対応巡回教員が担任と連携して、家庭訪問等を行い、不登校生徒の支援に取り組んでいる。

○支援計画の作成支援と校内研修支援

個別支援計画の作成については、不登校対応巡回教員と連携して、不登校対応コーディネーターを中心にまとめている。また、不登校対応巡回教員が全教職員を対象に、不登校生徒への対応、未然防止生活意識調査の結果についての校内研修を実施している。

○ＳＣ、ＳＳＷや関係機関等との連携

不登校対応巡回教員が勤務する毎週金曜日にＳＣ、ＳＳＷも勤務していることから、支援会議を含めて不登校生徒の情報共有を行っている。また、教育支援センターにも訪問し、不登校生徒の通室状況の確認や当該生徒と会話をし、その様子を支援会議で共有している。

成果

全教職員への不登校対応に関する校内研修を実施したことで、教職員の不登校生徒についての知識やその早期対応、未然防止の内容を理解し、意識して取り組むことができた。

課題

不登校対応巡回教員の勤務日が決まっていることから、別室利用生徒が固定してしまっているため、校内体制の整備が課題である。

不登校対応巡回教員による生徒への関わりについて

不登校生徒の状況

対象生徒は中学校 3 年生で、学校生活への不安やコミュニケーションの苦手さから教室へ入るのが難しくなり、3 年生になって欠席が増えた。校内別室に登校できた際は、不登校対応巡回教員が進路、学習、趣味などの話をしている。間近に迫った進路選択に向けて、学習やコミュニケーション力の向上を目標に支援を行っている。

具体的な取組

○支援会議への参加

不登校対応巡回教員が勤務する木曜日に生活指導報告と兼ねて不登校生徒の情報共有を行っている。また、どこにもつながりをもていない生徒の支援方法など、他校や教育委員会の連絡会等で聞いた内容を基に助言・指導している。

○不登校生徒の情報収集と対応

校内別室に定期的に行き、校内別室指導支援員と情報共有をしたり、当該生徒と話をして様子を確認したりしている。気になった様子や情報については、随時担任に報告し、支援につなげている。



○支援計画の作成支援と校内研修支援

個別支援計画を作成し、関係機関との連携などを確認し、校内別室指導支援員とも必要に応じて共有している。また、校内研修では不登校生徒への対応や生活意識調査の結果を共有し、全教職員で確認している。

○SCやSSW、関係機関等との連携

不登校対応巡回教員の勤務日には、SC及びSSWが勤務しているので、会議等で情報共有を行っている。また、教育支援センターなどを訪問し、当該生徒の様子を見て、会議等で教職員に伝えている。

成果

担任と連携して不登校生徒の家庭訪問を行い、なかなか会うことが難しい生徒に会うことができ、日頃の様子を確認することができた。

課題

巡回教員と共に行う家庭訪問等は、毎週決められた曜日にしか行けないので、校内体制の整備が必要である。

不登校対応巡回教員の取組について



不登校生徒の状況

対象生徒は中学校3年生であり、中学校2年生から欠席が増え始め、2学期にはほとんど登校ができなくなった。不登校の要因は起立性調節障害による生活リズムの不一致だった。現在は週1回放課後登校をして担任と面談をしている。また、週3、4日教育支援センターに通所している。受験に向けての活動が増えてきている。

具体的な取組

○校内別室利用生徒の支援

担任、特別支援委員、養護教諭、SC、SSW、別室支援員、不登校対応巡回教員で適宜情報共有を行った。

必要に応じ連携した支援が行えるようにしている。

○校内別室の整備

校内別室担当者と不登校対応巡回教員で以下の内容を検討、実施した。

- ① 校内別室利用生徒の登校状況、学習状況が確認できるワークシート作成
- ② 配布物の確実な受け渡しのための個別ファイル作成
- ③ コミュニケーションツール購入、活用

○特別支援会議での検討

特別支援会議にて、校内別室利用生徒の個別支援計画を不登校対応巡回教員と検討、作成した。生徒の支援方法を教員間で共有している。

不登校対応巡回教員が作成した「巡回通信」で他校の取組を共有している。

○現状分析

生徒アンケート（年3回）を実施し、現状の生徒の様子をの把握を行った。

必要に応じて不登校傾向生徒への支援強化を図る。

成果

不登校対応巡回教員が、不登校生徒の受験対策の支援を行った。不登校対応巡回教員が入ることで、不登校生徒の支援についていろいろな方法を考えることができた。

課題

不登校対応巡回教員と不登校生徒の出会う場面を多くし、多くの生徒が不登校対応巡回教員と小まめに連携をとれるようにする。

不登校対応巡回教員による校内体制強化への取組について

不登校生徒の状況

中学校 1 年生のときから、登校することが難しく、対象生徒及び保護者と連絡がつかないことが多い。教育支援センターや校内別室で活動することもできていないため、日々の家庭での活動や学習機会が確保できていない。

具体的な取組

○個別の支援計画の検討

不登校対応巡回教員と担任や学年教員が連携して、保護者、当該生徒及び保護者とどのような形でつながりをもっていくのか相談し、家庭訪問や電話連絡での保護者対応について、よりよい方向性について検討した。個別の支援計画を立て、長期的・短期的な手だてを考え、SCやSSWともつなげられるのか、対応を検討した。

○生活意識調査の活用

学校全体で生活意識調査を学期ごとに 1 回実施し、生徒の実態や特別支援や配慮が必要な生徒に対して、どのように教員が手だてを考えていけばよいのか、考えるきっかけとした。また、学校満足度調査の結果とも関連付けて分析し、問題行動や不登校・いじめ防止対応につなげた。

○生徒の情報共有

校内別室指導支援員と連携し、学習機会の確保ができる環境を構築して、担任や学年教員に情報提供した。教育相談部会で生徒や保護者の状況を報告し、連絡が取れる手段や今後の方向性を管理職、生活指導主任、学年主任と確認した。

○支援者による連携

不登校対応巡回教員が不登校対応コーディネーターやSC・SSW、管理職と連携することで不登校対応についての方針を確認した。組織体制の改善や教員の意識改革、不登校対策委員会の活性化につながっている。



成果

当該生徒に対して、担任や学年教員が定期的に生徒・保護者に対して連絡や家庭訪問をすることができている。

当該生徒とのつながりはまだ難しい状況ではあるが、年度末に向けての計画や目標を立てており、組織的に対応する体制が構築できている。

課題

不登校対応巡回教員は週 1 日の巡回のため、生徒・保護者とのつながりについて、校内組織の中心になることが難しい。

「安心」して登校できる校内別室の運営について

不登校生徒の状況

対象生徒は、友人とのトラブルから教室に登校することが難しくなった。人目につかない校内別室なら登校できるとのことで利用が始まった。欠席することもあるが、校内別室に登校した際は楽しそうに校内別室指導支援員や他の生徒と会話する姿も見られる。安定した登校を目指していく。

具体的な取組

○校内別室運営内容の検討

不登校対応巡回教員を交え、校内別室の設置場所、レイアウト等の検討を行い、運用を開始した。

パーティションの設置やコミュニケーションツールの活用、学習プリントの実施についても検討し、随時対応している。

○支援会議での情報共有

不登校対応巡回教員の「巡回通信」等で他の巡回校の取組を共有して、当該生徒の支援策について検討することができた。

○支援内容の検討

担当教員、不登校対応巡回教員、SSW等で生徒について情報を収集している。関係教員へ伝えるとともに支援内容について随時検討している。



○オンライン授業についての検討

校内別室利用生徒と教員との関係構築の一つとしてオンライン授業を検討している。不登校対応巡回教員から他の巡回校での実施情報を得て、運用開始に向けた準備を進めている。

成果

校内別室の運営について、他の巡回校の取組を踏まえて検討、実施することができた。関係者で詳細を情報共有したことで、生徒の対応について様々な視点で検討することにつながった。

課題

オンライン授業実施に向けて校内別室の環境整備も含め、必要事項を検討していく。